平成27年度 第3回 ハタハタ資源対策協議会資料

1 秋田県のハタハタ漁獲量

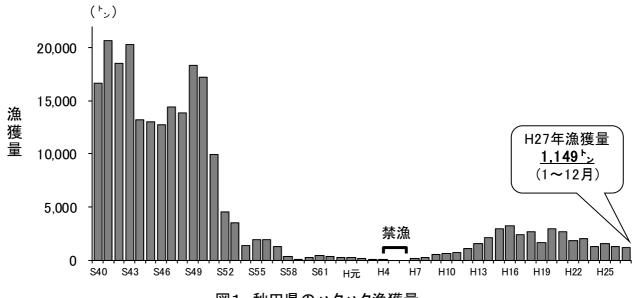


図1 秋田県のハタハタ漁獲量

(H26年まで農林統計、H27年は秋田県調べ)

●H27年1~12月の漁獲量は1,149~で、前年(1,259~)の 0.9倍 となった。

2 日本海北部5県の漁獲量

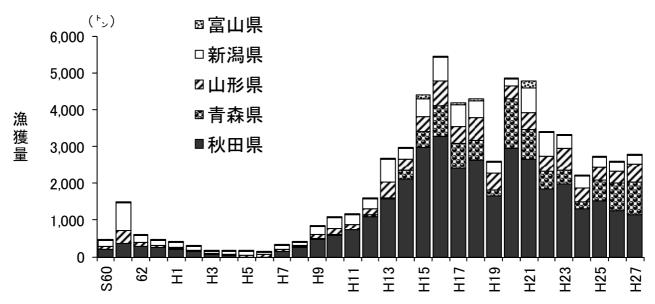


図2 日本海北部5県における漁獲量の推移 (暦年: H27年は日本海区水産研究所調べ)

- ●H27年の5県漁獲量は 2.766 ½ で、前年(2.576 ½)の 1.1倍 となった。
- ●秋田県の割合は42%で、前年に比べ7ポイント低下した。
- ●県別では秋田1,149 ^ト> (前年比0.9倍)、青森891 ^ト> (1.2倍)、山形469 ^ト> (1.3倍) 新潟 243 ^ト> (1.1倍)、富山14 ^ト> (前年同)であり、青森県と山形県での増加が目立った。

3. 漁獲枠と漁獲実績

表1 秋田県におけるハタハタ漁獲枠と漁獲実績の推移

-		沖合				沿岸	合計			
年		漁獲枠	漁獲量	実績(%)	漁獲枠	漁獲量	実績(%)	漁獲枠	漁獲量	実績(%)
平成	7年 **1	85	54	63	85	89	104	170	143	84
	8年 **	110	86	78	110	157	143	220	243	111
	9年	180	148	82	180	280	155	360	428	119
	10年	300	162	54	300	438	146	600	599	100
	11年	400	142	36	600	580	97	1,000	722	72
	12年	400	265	66	600	902	150	1,000	1,166	117
	13年	520	506	97	780	986	126	1,300	1,493	115
	14年	680	384	57	1,020	1,570	154	1,700	1,954	115
	15年	960	907	94	1,440	2,051	142	2,400	2,958	123
	16年	1,000	707	73	1,500	2,349	157	2,500	3,055	122
	17年	1,000	489	49	1,500	1,867	124	2,500	2,356	94
	18年	800	944	118	1,200	1,640	137	2,000	2,584	129
	19年	720	847	118	1,080	765	71	1,800	1,612	90
	20年	1,200	868	72	1,800	2,035	113	3,000	2,903	97
	21年	1,040	1,054	101	1,560	1,475	95	2,600	2,530	97
	22年	960	457	48	1,440	1,277	89	2,400	1,734	72
	23年	1,120	677	60	1,680	1,287	77	2,800	1,964	70
	24年	1,080	376	35	1,620	931	57	2,700	1,307	48
	25年	768	624	81	1,152	898	78	1,920	1,522	79
	26年	672	285	42	1,008	940	93	1,680	1,225	73
	27年	320	430	134	480	686	143	800	1,116	139

^{※1} 平成8年までは沖合、沿岸とも暦年、平成9年以降は管理漁期(9月~翌6月)の値

4. 漁獲量と漁獲金額

表2 ハタハタ漁獲量と漁獲金額の推移 (秋田県調べ)

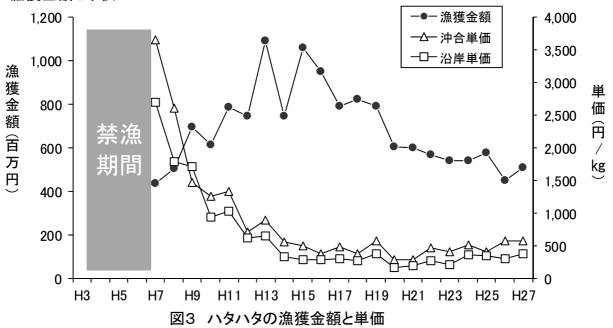
	漁	獲 量(トン	<i>(</i>)	漁獲	金額(千円	単 価(円/kg) ^{※3}			
年	沖合	沿岸	合計	沖合	沿岸	合計	沖合	沿岸	平均
7年 *1	54	89	143	196,724	239,821	436,545	3,658	2,703	3,063
8年 **1	86	157	243	224,558	280,367	504,925	2,607	1,783	2,075
9年	148	280	428	218,367	477,568	695,936	1,474	1,706	1,626
10年	162	438	599	202,342	411,845	614,187	1,252	941	1,025
11年	142	580	722	190,537	597,957	788,495	1,338	1,031	1,091
12年	265	902	1,166	186,801	557,096	743,897	706	618	638
13年	506	986	1,493	450,761	638,527	1,089,289	890	647	730
14年	384	1,570	1,954	214,761	530,312	745,072	559	338	381
15年	907	2,051	2,958	452,811	606,298	1,059,109	499	296	358
16年	707	2,349	3,055	272,221	678,022	950,242	385	289	311
17年	489	1,867	2,356	236,381	555,949	792,329	483	298	336
18年		1,640	2,584	365,188	458,605	823,793	387	280	319
19年	847	765	1,612	494,974	296,431	791,405	584	387	491
20年	868	2,035	2,903	257,041	346,654	603,695	296	170	208
21年	1,054	1,475	2,530	305,754	293,277	599,031	290	199	237
22年	457	1,277	1,734	214,136	352,301	566,437	468	276	327
23年	677	1,287	1,964	275,345	265,686	541,031	407	206	275
24年	376	931	1,307	196,639	344,001	540,640	523	369	414
25年	624	898	1,522	255,740	320,009	575,749	410	356	378
26年	285	940	1,225	162,317	288,459	450,776	570	307	368
27年 **2	430	686	1,116	247,845	260,277	508,122	576	380	455
H27/H7	8.0	7.7	7.8	1.3	1.1	1.2	0.2	0.1	0.1
H27/H26	1.5	0.7	0.9	1.5	0.9	1.1	1.0	1.2	1.2

^{※1} 平成8年までは沖合、沿岸とも暦年、平成9年以降は管理漁期(9月~翌6月)の値

^{※2} 今漁期は沿岸は1月15日、沖合は2月29日までの値

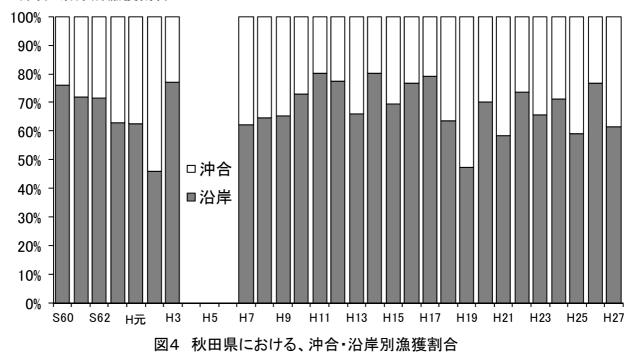
^{※2} 今漁期は沿岸は1月15日、沖合は2月29日までの値

5 漁獲金額と単価



- ※ 平成8年までは沖合、沿岸とも暦年、平成9年以降は管理漁期(9月~翌6月)の値
- ※ 今漁期は沿岸は1月15日、沖合は2月29日までの値
- ●今漁期の漁獲金額は5億8百万円であった。漁獲量は前年比0.9倍に減少したが、漁獲金額は前年比1.1倍に増加した。
- ●1kgあたりの単価は、沖合が 576円(前年比+6円)、沿岸が 380円(+73円)となり、特に 沿岸で大きく上昇した。

6 沖合·沿岸別漁獲割合



※沖合、沿岸とも管理漁期(9月~翌6月)での漁獲量(水産漁港課調べ)

●今漁期の沖合の比率は39%であり、前年(23%)より増加した。

7 沖合漁獲量の推移

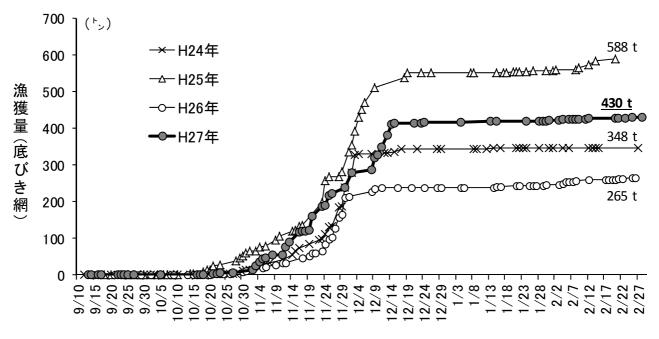
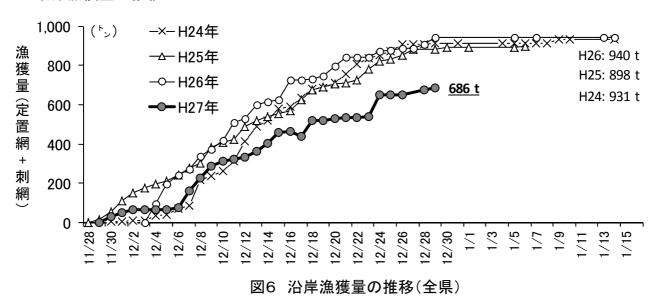


図5 底びき網漁獲量の推移(全県)

- ●初水揚げは9月13日で、北部で6kg が水揚げされた。
- ●H28年2月末時点の漁獲量は 430 ½ (漁獲枠の134%)で、H26年漁期同期の1. 5倍となった。

8 沿岸漁獲量の推移



- ●初漁日は11月29日で、H26年漁期(12月3日)よりも4日早かった。
- ●初漁日には男鹿北部(北浦)で0.8 by、男鹿南部(船川)で0.6 byが水揚げされた。
- ●今漁期の漁獲量は686 ½ (漁獲枠の143%)で、H26年漁期の同期の73%に留まった。

9 沖合と沿岸の漁獲量

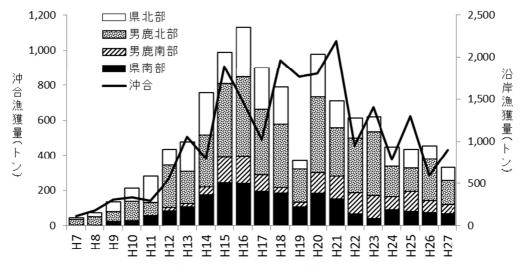


図7 沖合(線グラフ)および沿岸(棒グラフ)での漁獲量の推移

※沿岸漁獲量は県北部(岩館〜八竜)、男鹿北部(若美〜戸賀)、男鹿南部(椿〜天王)、県南部(秋田〜平沢) とし、H8年まで暦年、H9年以降は管理漁期(水産漁港課調べ). H27年漁期の底びき漁獲量はH28年2月29日までの値

【底びき網漁】

- ●漁獲量は11月の海況が穏やかで出漁日数が多かったことや、魚群が浅場に集中したことから、前年に比べてかなり増加した。
- ●一方、主漁期の11月においてもマガリカド以南(図8)の漁場ではほとんど漁獲されておらず、漁場は狭かった可能性がある。

【定置網·刺網漁】

- ●群れがまとまって接岸したのは、概ね11月29~30日、12月6~7日(いずれも県北部と男鹿周辺)、 および 12月13~15日(県南部)の3回程度と少なく、いずれも群れの規模は大きくなかった。
- ●その結果、漁獲量は県北部が昨年漁期と同等だったほかは、いずれの地区でも減少した。

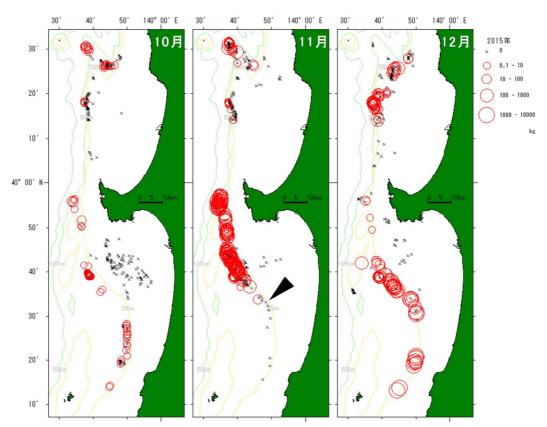


図8 平成27年10、11、12月における底びき船の操業位置とハタハタ漁獲量(北部・船川・南部各3隻の全データ▼:マガリカド)

10 今漁期のハタハタ体長組成

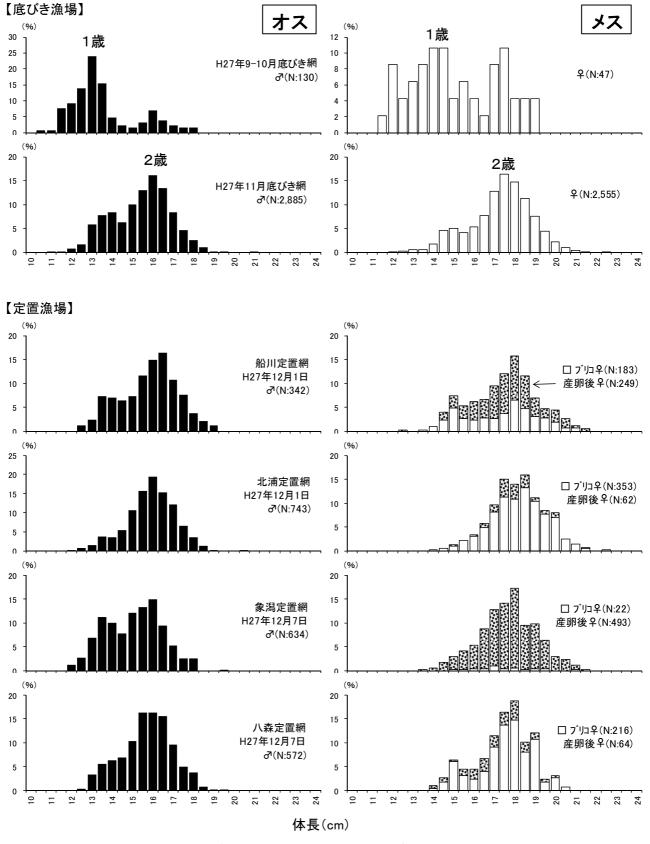


図9 H27年漁期の底びき網漁と定置網漁で水揚げされたハタハタの体長組成

- ●底びき網では、10月まで1歳の割合が高かったが、11月以降は2歳の割合が高まった。
- ●定置網では、全県的に2歳の割合が高かった。

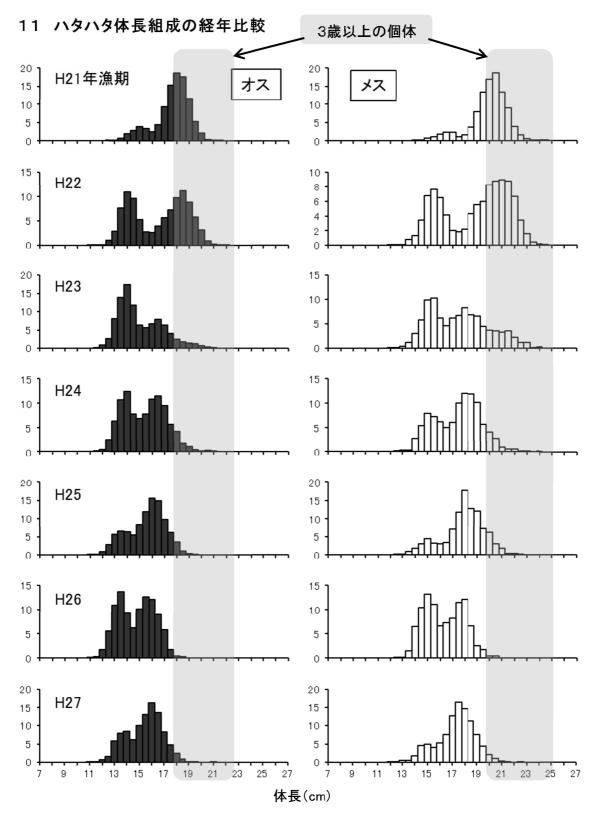


図10 ハタハタの体長組成の経年比較 (底びき網漁場の漁獲物)

- ●H23年漁期以降は3歳以上の割合が低い状態が続いている。
- ●近年は、生残が顕著に良い年級群(卓越年級群)が発生していないことに加えて、 主に漁獲により3歳までの生残も低く推移している可能性がある。

12 藻場内におけるハタハタの卵塊密度

表 ハタハタ卵塊密度の推移 (個/m²)

地区	定点 [※]	調査年(産卵年の翌年:H18年は3月に、他の年は1~2月に実施)												
- 45 PC	正 点	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
岩館	Stn. 1 (小入川)	14.7	75.5	14.9	7.2	2.3	1.4	3.0	11.8	10.0	19.5	10.5	26.0	N.D.
	Stn. 2 (小入川)	39.4	6.4	N.D.	27.5	86.9	0.9	2.0	1.1	2.4	2.8	N.D.	2.2	N.D.
八森	Stn. 3 (漁協脇)	25.3	23.0	59.2	67.8	57.7	7.7	85.1	53.5	71.0	250.8	11.7	42.5	66.9
北浦	八斗崎 Stn. 1 (0.5m)	9.9	17.7	2.9	4.5	9.6	189.9	137.1	128.9	91.8	136.6	N.D.	36.0	28.3
	八斗崎 Stn. 2 (1.5~2m)	70.1	13.3	0.5	0.7	0.1	1.5	1.4	1.0	6.3	2.4	N.D.	0.5	1.5
	湯の尻 Stn. 1	16.3	1.8	2.1	6.1	2.6	42.1	13.6	14.6	2.5	7.4	N.D.	8.0	0.1
	湯の尻 Stn. 2	26.2	20.6	10.0	2.9	7.9	11.0	7.0	11.5	5.7	4.7	N.D.	1.1	1.3
船川	備蓄 Stn. 2	17.7	72.5	61.6	46.6	263.3	271.2	289.6	273.7	253.4	150.4	32.7	46.7	11.0
	備蓄 Stn. 3										154.3	626.8	758.7	187.3
平沢	Stn. 2 (鈴分港)	69.8	288.7	51.6	102.5	37.5	162.3	34.2	64.2	12.1	68.3	N.D.	344.4	44.3
象潟	Stn. 3										45.4	N.D.	75.9	22.1

[※] N.D.は悪天候によりデータが得られなかった調査点を示す

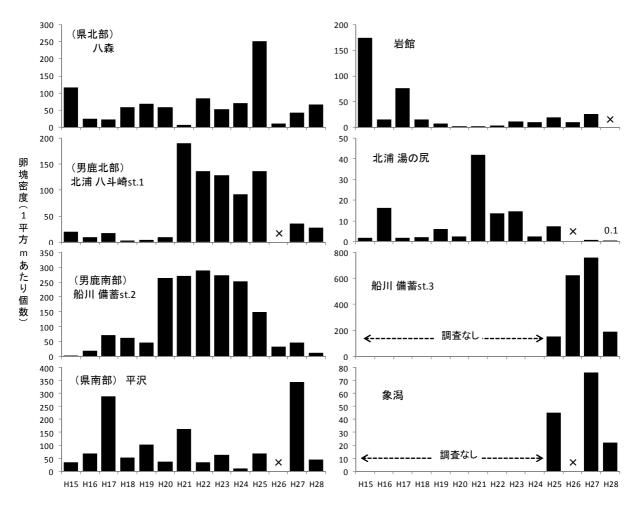


図11 秋田県沿岸におけるハタハタの卵塊密度 (×:調査なし)

- ●県北部八森の卵塊密度は大きく変化していなかったが、それ以外では密度がかなり低下している。
- ●卵が産み付けられるホンダワラ類の藻場には、H17年以降では大きな変化はない。
- ●今年度は上記定点の他に、能代港から西目漁港まで、10地点で卵塊密度調査を実施した。卵塊密度が高かったのは道川漁港(70個/㎡)や松ヶ崎漁港(38個/㎡)などで、港内の小型海藻に高い密度で産卵していた。

13 海岸に漂着したハタハタ卵塊(打ち上げブリコ)の重量

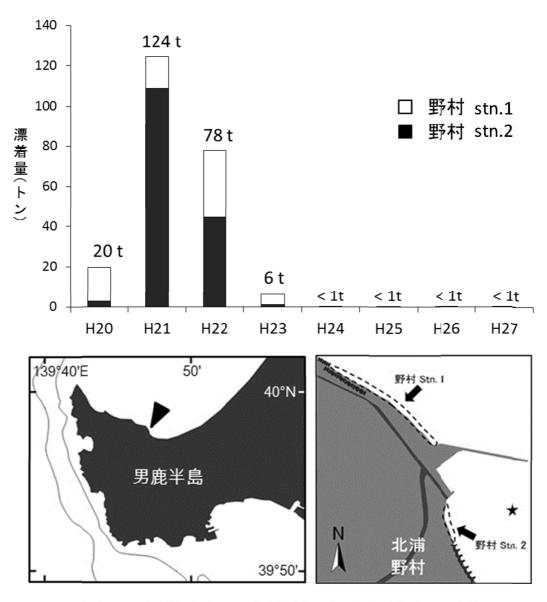


図12 北浦野村への漂着量の年変化(各年12月)

- ●H27年12月の北浦野村海岸への漂着量は1トン未満であり、依然として低水準である。
- ●全県的にもまとまった漂着はほとんど確認されなかった。

【H27年ハタハタ漁期のまとめ】

- ◎ 今漁期の底びき網漁は出漁日数が多く、比較的狭い範囲に漁場が集中したことから、漁獲量は前年漁期に比べて大きく増加
- ◎ 新潟~青森での底びき網漁はここ数年は堅調に推移
- ◎ 定置網・刺網漁は、群れの来遊規模が小さく、来遊回数も少なかったことから、全県的に低調に推移
- ◎ 青森県沿岸での定置網漁は、H25年漁期以降、増加傾向が続いている
- ◎ いずれの漁場でも、H25年級群(2歳)が漁獲の中心
- → 資源は低水準で推移しているが、H25年級群が新潟~青森沿岸での漁獲量を支えた

【H28年ハタハタ漁期の予想】

- ◎ 新たに加入する、H27年級群(1歳)の豊度をここ数年並みの水準と想定すると、来漁期に 資源量が大きく回復することは期待できない
- ◎ H25年級群は、本年春~夏に広い海域で漁獲されれば、本県にも3歳魚として産卵回帰する可能性もある
- → H28年漁期も資源水準は低く、依然として大型魚(3歳以上)の割合も低い見込み

【今後の取り組みについて】

- 低水準にある資源を維持するため、来漁期も引き続き漁獲圧を削減し、 獲り残しを増やすことが必要
 - 1. 小型魚の混獲を低減する漁具の改良試験を進める
- 2. 漁獲物はすべて漁協に集約し、これまで以上に円滑な流通・販売体制を築く
- 3. ハタハタ資源の低水準期に対応した経営の工夫を